

REQUIREMENTS HEALTH CHECK

AI任せの開発に進む前に、 確認すべきこと

仕様の穴と潜在化リスクを、発注前に洗い出す方法。
—— Blueprint が診断する3つの落とし穴と、その先の選択肢。

- 01 AIに丸投げすると、なぜ仕様の穴が生まれるのか
- 02 議事録の一行の余白が、開発後半でどう炎上に変わるか
- 03 見つかった穴を塞ぐには、なぜ専門家の判断が要るのか

Blueprint by MountPosition

WHY AI-ONLY REQUIREMENTS FAIL

なぜ、AIに要件定義を任せると失敗するのか

ChatGPTやAIエージェントに議事録を投げれば、それらしい仕様書は数分で作れます。しかし「それらしい」と「実運用に耐える」ことの間には、大きな溝があります。

所見 R-01**要求と要件の履き違い**

AIに要件を投げれば、「なぜ」を確かめずに、最初に思いついた「解決策」をそのまま仕様として整形してくれます。検証されないまま、その言葉が仕様として積み上がっていきます。

所見 R-02**仕様の抜け漏れ**

「キャンセルはできるが返金は？」——議事録に書かれていない論点には、AIも人と同じく気づきません。決めきれなかった穴は、開発後半で発覚します。

所見 R-03**気づくのが遅い**

AIが整えた仕様書は、体裁が整っているほど穴があることに気づきにくくなります。設計の破綻は、開発後半・リリース直前ほど修正コストが跳ね上がります。

誤解しないでください。これは、あなたの読解力や仕事の丁寧さの問題ではありません。「なぜ」を確かめず、書かれていないことに気づかず、体裁の良さが判断を鈍らせる——これはAIに要件定義を任せた場合に、誰にでも起こる構造的な問題です。

A HIDDEN GAP IN THE MINUTES

「キャンセルはできるが返金は？」 議事録に潜む一行の余白

実際の相談でよくある議事録の一節を例に、Blueprint がどのように仕様の穴を見つけるかを見てみましょう。

MINUTES EXCERPT

「注文はキャンセル可能。発送済みの場合は不可。」

01

構造矛盾の検出

「キャンセル可能」という状態遷移のルールに対し、「返金」という結果側の状態が定義されていません。注文（Order）が取り得る状態の一覧に「キャンセル済み・返金待ち・返金完了」が存在しないのです。

02

業務シチュエーションへの翻訳

これは、キャンセル処理をした担当者が「じゃあお金はいつ、どうやって返すんですか？」と手が止まる瞬間そのものです。決済代行会社への返金APIをいつ呼ぶのか、返金までの猶予日数は何日か——リリース後にサポート担当が個別に判断することになります。

03

最悪の結末

返金対応が場当たり的になり、二重返金や返金漏れが発生する。顧客対応の一貫性が失われ、クレームに発展する。

金銭リスク

信頼リスク



FIG - 診断結果画面：上記のような所見がリスクカードとして一覧表示される

DIAGNOSE, DON'T GENERATE

生成しない、診断する

Blueprint は ChatGPT のように「それらしい仕様書」を書き上げるツールではありません。今ある議事録・要求を4つの要素に分解し、要素同士の整合性を機械的に検証する診断エンジンです。

なぜこの分解方法なのか

Blueprint は、議事録の内容を Actor（誰が）・Resource（何を）・Event（いつ何が起きる）・State（どう変化する）という4つの要素に原子化し、要素間の矛盾を突き合わせます。この分解と相互検証は、RDRA など実務で使われる要件分析手法と同じ骨格です。

「AIにそれらしく書いてもらおう」のではなく、プロの設計者が脳内で行っている検証プロセスをそのまま構造化している点が、ChatGPTに仕様書のレビューを頼むこととの違いです。

診断結果として得られる7つの成果物

FIG.01	概念モデル	業務ドメインの静的な構造・関係性の骨格
FIG.02	要求一覧	解決したい課題・達成したい成果（なぜのログ）
FIG.03	要件一覧	要求を満たすためにシステムが備えるべき振る舞い・ルール
FIG.04	業務フロー	Actor が起こす時系列のプロセスと State の変化
FIG.05	権限マトリクス	誰が何に対して何を実行できるか
FIG.06	リスク一覧	データの孤立・フローの断絶など仕様の穴
FIG.07	未解決質問一覧	放置すると業務が止まる、確認すべき論点

要件定義 成果物全体像



FIG - ダッシュボード画面：7大成果物の一覧

安心してご相談いただくために

暗号化して保管 保存データは暗号化。第三者には提供しません。

データを外に出さない構成 高機密案件は、解析をローカル環境で完結しデータが外部に出ない構成をご提供できます。

NDA・DPAに対応 本格利用ではNDA・データ処理契約を締結のうえご利用いただけます。

DIAGNOSIS IS NOT THE DESTINATION

「穴が見つかった」——その先に

Blueprint は、仕様の穴と矛盾を洗い出すところまでを行います。しかし、見つかった穴を「どう塞ぐか」「どちらの仕様を選ぶべきか」の判断には、別の専門性が必要です。

健康診断

「この数値は基準値を外れています」と示す。治療方針を決めるのは医師の専門性。

Blueprint

「ここに矛盾・未解決の論点があります」と示す。業務要件・予算・スケジュールを踏まえて仕様に落とし込むのは、実務経験を積んだ人の判断。

診断結果を持ったまま自己判断で開発に進めるか、専門家に相談してから進めるか——この分岐点が、後の炎上を左右します。

TALK TO A PROFESSIONAL

MountPositionという選択

Blueprint は、MountPosition が提供する要件定義の健全性診断サービスです。診断で見つかった仕様の穴は、当社のシニアアーキテクトによる無料セカンドオピニオン面談で、そのまま仕様への落とし込み・開発の相談へとつなげることができます。

要件定義から実装まで、同じ思想で一貫して対応できることが、Blueprint と開発を分けて依頼する場合との違いです。

MountPosition Inc. は2010年8月2日設立。受託開発・PMコンサルティング・内製化支援、エンタメ領域のサーバーサイド開発などを手がけています。詳しくは mountposition.co.jp をご覧ください。

NEXT STEP

まずは、あなたの議事録で試してみませんか

プロに相談したい

仕様の整理・開発・PMコンサル、社内でのセキュアな利用について、シニアアーキテクトが直接お話しします。

開発・利用を相談する →

まず試してみたい

登録すれば、自分の議事録から無料で構造化・リスク可視化ができます。

無料ではじめる →

面談では、その場で実際の議事録を診断にかけながらお話しすることもできます。